

感染症と水

学習院女子中等科三年南組

たなかまろり
田中茉莉

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、
 手洗いの重要性が再認識された。石けんやハ
 ンドソープで十秒もみ洗い後、流水で十五秒
 すすぐと、手のウイルスが洗う前の0.00
 0パーセントまで除去できる。外から帰っ
 た時や食事の前、水道の水と石けんで手を洗
 うことは、物心付く前から再三言われてきた。

これはきれいな水が水道の蛇口から出てくる
 ということが大前提だ。そしてウイルスなど
 を含んだ水は辺りを汚染することなく、下水
 管に流れ下水処理場で消毒され、適切に処理
 される。改めて日本の上下水道の安全性と技
 術の高さに驚く。

以前、門井慶喜の『家康、江戸を建てる』
 という本を読んだ。徳川家康は豊臣秀吉から
 関東を拝領した後、利根川の治水と上水の整
 備を臣下に命じた。そうすることによって住

民が安心して住むことができ、更に人が集ま
 て、都市が発展していく。家康は、都市にと
 ての水の重要性をよく知っていたのだと思っ
 た。その後、江戸の人たちが厠でした排泄物
 は、肥料として買い取られていった。そうし
 て江戸の町は清潔が保たれ、江戸は繁栄して
 いった。

最近、公民の国際連合についての課題で、
 国連サミットで採択されたSDGs（持続可
 能な開発目標）について少し調べた。十七の

国際目標の中に「安全な水とトイレを世界中
 に」というものがある。ユニセフのホームパ
 ージによれば、二〇一七年、「安全で管理さ
 れた水」を飲めるのは、全人類の七割程だ。
 また安全に管理された衛生施設（トイレ）
 を使えるのは人類の四十五パーセントだ。S
 DGsによれば二〇三〇年までに「誰一人残
 さない」で達成することか目標とされている。
 「安全で管理された水」が七割も達成されて
 いるのか、と思うところもある。しかし公民

の教科書に載っている、泥水を飲む女の子の
 写真を見るたびに、やはり百パーセントにし
 て、子ども達を守らなければと考える。また、
 家族にとって重要な仕事である水汲みを担
 うことになるのは子ども達だ。家から離れた
 水場まで何往復もする水汲みのため、学校へ
 通えない子ども達がいるという。水源の整備
 は、SDGsの一つ「質の高い教育をみんな
 に」にも繋がる。

更にトイレに至っては、世界人口の十八パ
 ーセントが「改善されていない衛生施設（ト
 イレ）」を使用したり、屋外排泄を余儀なく
 されている。そのため周辺の水源や井戸など
 が汚染されやすく、その結果安全な水を飲む
 ことができず、赤痢菌やコレラ菌などを汚
 染された水を飲み、感染症で亡くなっしま
 う子ども達をなくすためにも、トイレの改善
 は急がれるべきだと考える。たとえ石けんを
 使っても、水が汚染されていたら手は不衛生
 なままだ。

わたしは年間を通して雨が降り、水源が豊富な日本に住んで、毎日水道水を飲み、水道水で手を洗い、お風呂に入って体を清潔にしている。新型コロナウイルス感染症による死者数が、日本は世界と比較して少ないと言われているが、浄水場や下水処理場の設備の能力の高さと、上下水道の完備がその理由の一つではないかと考える。改めて、日本の上下水道に関わる方々に心から感謝するとともに、「安全な水とトイレを世界中に」を含むSDGsの十七の目標が達成されるよう、私なりに情報を集め、考えて行動していきたい。